

新年を迎え

2021

これからの葬儀のカタチ

アフターコロナの葬儀事情



宮崎県葬祭事業協同組合 理事長

(株)ふじもと美誠堂 代表取締役 藤元一生氏

儀はどのように「カタチ」で対応していくと思いますか？

A 近年、参列者の数が減少傾向にありました。コロナの影響でさうにその傾向は進むと思われます。従つて葬儀サービスも会葬者向けから故人、遺族向けへと変化する必要があります。例えば故人のお身体のお手入れや湯灌、お着せ替え、お化粧などご遺体保全にかかるサービスです。また豪華な祭壇より故人のお棺の回りをお好きだったお花で囲むなど、より故人に近いスペースでの新しいサービスが求められてくるでしょう。

2020年、世界は誰もが予期しない世界を経験しました。今尚、猛威を振るう「新型コロナウイルス」。コロナにより、人間の生活も大きく変わり、「新しい生活様式」が始まっています。

それは「最後の別れ」にも景観を
与え、お葬儀のスタイルさえも変え
つつあります。大切な人を失った遺
族へのケアは勿論、コロナ禍での新
しい葬儀形態も提案していくしなけ
ればならない現在。

◆◆◆

2021年を迎える、これから
『葬儀のカタチ』アフターコロナの
葬儀事情を「宮崎県葬祭事業協同組合
理事長」を務めている株式会社ふじ
もと美誠堂 代表取締役 藤元一生氏
にお話しを聞きました。

Q1 新型コロナ禍での葬儀をどのように「カタチ」で対応しましたか？

A ルスの感染拡大が続く

で、葬祭ホールも拡大防止に最大限の努力をしてきました。

の検温、マスクの着用、手指の消毒、液の設置、換氣や清掃、椅子の間隔

酒の詰置 手袋の酒打 杖子の脇障
を広く取るソーシャルディスタンスの散底などです。

また食事もオードブル形式からお持ち帰りできる個食に変えました。

さらに、一番混雑するお通夜も、親族通夜と一般通夜の時間をずらす

などして、極力三密を避けるよう配慮しました。

Q2 日常が、「新形態」を急加速で進める中、これからの大



手指の消毒液やシールドを施しを受付台

意義があります。コロナや自然災害などで葬儀を執り行うことことができなかつたご遺族の悲しみは、あとあと今まで尾を引くかもしれません。

意義があります。
コロナや自然災害
などで葬儀を執り行
うことができなかつ
たご遺族の悲しみは、
あとあとまで尾を引
くかもしれません。

